

横澤 放川選

特選

青麦や虚偽には禾の針千本

藤埜 まさ志

何やらの絮浴びてゐる春愁

中山 和子

幼子の雀隠れの靴二つ

伊藤 本子

入選

花冷やどれもきれいな潦

丸澤 孝子

麦の穂のあを空を遠ざける

森 祐司

クロツカス土割つて地の炎めく

広海 あぐり

帽子買ふ春が来たからまた一つ

町山 公孝

木々に触れ水に触れ春行きにけり

河合 憲子

春の芝啄むやうに醜を取る

藤埜 まさ志

新緑の中へ一日だけ家出

町山 公孝

葉桜や新たな暦始まりぬ

杉原 かほる

囁き止まず春昼の笹の花

松本 千代美

葛飾は今も昔も桃咲けり

小林 陽子

はや四十九日や兜太花は葉に

久礼 隆志

囀の中より水の現はるる

森田 京子

切株の年輪数へ春逝かす

平野 鏝哉

たんぽぽの絮まろまると自由かな

岡本 秀子

青麦の揃うて風に諾へり

新津 黎子

颯爽と虫がとびこむ遊蝶花

吉田 しづ子

あをぞらの先も青空初つばめ

伊藤 素広

緑さす彫刻の子のおちんちん

中山 和子

桜蕊降る初めての街たのし

川島 佳子

蘆牙の放つ水の輪予兆あり

井上 つぐみ